

くつろぎタイム

休日に体を動かしたり、料理をしたり、好きなことをしているときに、私のリラックスタイムです。

服部コーヒーフーズ株式会社
代表取締役社長
仙台商工会議所 2号議員

はっとり ふゆき
服部 冬樹 氏

1967年12月21日生まれ
仙台市出身
血液型A型



宮城県仙台第一高等学校から学習院大学法学部法学科に進学。卒業後、福岡の企業に3年間勤務し、修行を積む。その後、祖父が立ち上げた服部コーヒーフーズに入社、山形支店に配属となる。1年半後、仙台本社で経営企画部、営業部郡山支店長を経て、2000年、副社長に就任。2003年から現職。

どのようなきっかけで始められたのですか。
私は、2003年に社長に就任したのですが、そのとき、実は体重が100キロ近くありまして、業界の社長さんたちからも、顔を合わせる度に「健康のためにも、やせないよダメだよ」と、忠告されていたんです。そんなとき、ある方から「通勤を徒歩にしてみたらどう？」と言われて、歩いて帰ったことをきっかけに朝も歩いて通勤するようになったのですが、それからじわじわと痩せ始めたんです。

大年寺の255段の階段を往復するトレーニングを続けていらっしゃるとか。

週末だけですが、往復するのが習慣になりました。夏場ですと、朝5時半くらいから始めて、歩いて上って1時間くらいで10往復します。決して駆け上がりしているわけではないのですが、はた目には「速い」と思われているようです。もちろん、最初から10往復していたわけではありませんが、スピードもいまほど速くはありませんでした。スピードに上ることに徐々に体が慣れてきたのだと思います。

大年寺の階段を上ったのは、歩き始めてから1年ほど過ぎたころです。大年寺は自宅から徒歩10分くらいのところにあり、たまたま機会があったら255段ある階段を上ったんです。1年間歩いていたので体力、脚力にはそれなりに自信があったものの、階段を上る辛さは想像以上でした。それで、これは良い運動になると思ったわけです。

継続する秘訣は、どんな点にこだわっているのか。

責任ある社長という立場になったこと。それから、知り合いのお医者さんが「痩せること、慌てなくていい体になっていけば」と言ってくれたことで、少し気が楽になったことですね。

そしてもう一つは、父の分も長生きしなければ…という思いでしょうか。創業者である祖父は長生きだったのですが、父は39歳という若さで亡くなりましたので、それが潜在意識の中にあるのは事実ですし、続けるための原動力になったのだと思います。できればの話ですが、60歳になったらトライアスロンに出られる体になっていたら最高だなと思って続けています。

トレーニング後の休日は、どのように過ごしていますか。

大年寺から帰ったら、シャワーを浴びてさっぱりしたところで、長年飲み続けている黒酢のドリンクを一杯。健康になったかな…と、ちょっとした充実感を感じる瞬間です。あとは、平日は出張が多いので、どうしても会社に出て残務整理をすることも多くなっています。

自宅にいるときは、夕食をつくることもあります。私は食べるのが好きなので、自分でもつくることが

苦にならないんですよ。家族も、私が夕食をつくる光景は日常の一部になってきていると思います。もっぱらイタリア料理、それもパスタ料理専門で、お酒も好きなので、飲みながらパットつくってしまいます。特別なことは何もありませんが、仕事で日本では手に入りづらい珍しい食材も扱っていますので、そういう意味では材料のこだわりというのはあるかもしれません。自分で意識したことはありませんが、好きなことをやっているこの時間が、リラックスタイムになっているかもしれませんね。

お仕事柄、海外へ行かれることも多いのではありませんか。

そうですね。出張で年に3回くらいは、いろいろな国に行きます。個人的に好きなのはイタリアで、もう10回以上は訪れています。

イタリアでは洋服を見て回ったり、イタリア料理を楽しんだり、カフェ文化に触れるのも刺激になります。もともと洋服が大好きで、これは痩せようと思った話にもつながるのですが、太っていたころは着たい洋服があっても私に合うサイズを置いていた店がなかなかなく、好きな服が着られるようになっていくというの、痩せるモチベーションの一つだったかもしれないですね(笑)。

今後、訪れてみたい国はありますか。

時間とお金を関係なしに言ったら南極ですね。「宇宙旅行をしてみたい！」といった感覚に近いのですが(笑)。私はスキューバダイビングをやっている南の島はいろんなところに行きましたので、それとは違う南極に行ってみたいなど。ニューカレドニアや中米のカリブ海ベリーズにあるブルーホールにも潜ったことがあるのですが、最近潜っていません。まだまだプライベートで旅行をするような時間は取れないと思いますので、旅行を楽しむのは、もう少し先になりそうです。



昨年7月に若手社員の方々と訪れたイタリアのトリエステという港町でのスナップ。

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの人が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

街

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)